

各位 公益のため、会員以外の方にも御参加を呼びかけております。
御参加ご希望の方は、12月18日迄に事務局まで一報ください。

十二月例会 御案内 (平成二十九年・通算第六八〇回)

公益財団法人 協和協会

○ 御案内

十二月二十日(水)十一時半より入館可、正午～午後二時半参議院議員会館一階一〇二会議室
講題 東アジアの安全保障情勢を総括する！
講師 飯田将史先生(防衛省・防衛研究所・主任研究官)

◎ 今年、正月早々、北朝鮮のミサイル発射で明け、先月二十九日にはアメリカ本土全域をも射程とするICBM(大陸間弾道弾)の発射まで、その間にも、核地下実験と何度ものミサイル発射があり、正に今年には北朝鮮の挑発に世界が振り回された年と言ってよいでしょう。これに対し、アメリカ・トランプ大統領と日本の安倍晋三総理は、日米安全保障条約のもと、緊密に連絡をとり、そのたびに、世界に呼びかけて安全保障会議を開き、北朝鮮への経済制裁を行ってきたが、アメリカはかねてより、米本土を直撃するにいたるかが忍耐の限度と言ってきただけに、今回のICBM発射で、米朝開戦の可能性が出てきたといえ、この年内も予断を許しません。それにつけ、中国、ロシア、韓国が、どう出てくるのかも心配です。
□ そこで今回は、防衛省・防衛研究所の飯田将史主任研究官をお招きし、そうしたアジア各国の諸情勢を分析し総括していただきます。奮っての御参加お待ち申し上げます。(清原記)
□ 当日会費(昼食付き) 会員は四千元、非会員五千元。

公益財団法人 協和協会 当日連絡先 080-8836-6203 重田

十二月二十日(水)の月例会に <http://www.kyowakyokai.or.jp> 電話 03-3581-1192

出席 欠席 (いずれかに〇印を) (通話のみ) FAX 03-3507-8587

御芳名

貴方様の FAX メール

▽十二月十八日(月)までに出席の御連絡賜りたく。

◎ 御報告

去る十一月二十九日(水)の月例会は「人工心臓を夢見て、治療に医療機器を初めて導入！」と題して、渥美和彦先生(東京大学名誉教授、東京大学医学部元教授、鈴鹿医療科学大学元学長)に御講話をいただきました。渥美和彦先生は東大医学部を卒業して付属病院医局に入られた昭和三十三年ごろから、当時、死亡率の高かった心臓病をなんとか減らしたいと考え、世界に先駆け「人工心臓」を開発することを、生涯の目標として研究してこられました。そのお志は貴いことと思えます。なお、先生は、名誉教授とされてからは、予防医学、特に中国伝統医学の針灸なども取り入れ統合医療を研究してこられておりますので、この日、御講話をいただきました。当日、先生は、前半に、東大で生涯の課題とされた「人工心臓」研究についての回想録を、参加者に献呈・配付して下さり、それを参考として、御解説を下さいました。この日、奥様・英子夫人(医博・東京女子医大卒)も同席されましたが、御自身、医師としての仕事をもちながら、和彦先生の研究に献身的に協力されたお話しもあり、麗しき夫婦愛に感動しました。この日、人工心臓研究会の清原からつい最近、ノーベル賞受賞者山中教授のips細胞を活用して、人工腎臓に成功した報告もあり、「人工心臓」も近いのではないかと渥美先生の御努力を称えました。この日の後半は、現在、渥美先生御夫妻が進めている予防医学・統合医療にテーマを移し、御説明をいただいたあと、参加者一同にて意見交換を行いました。これについては、参加者にも身近なことなので、実に活発な意見がでました。また、当日参加下さった医療系大学の教授の先生からも、大層貴重な御意見が出ました。最後には、これを機会に、しばらく中断していた「医療福祉部会」を来年春に再開することも、申し合わせました。(清原記)

▽ 当「公益財団法人 協和協会」とは

昭和四十九年、岸信介元総理によって創立された財団。活動趣旨は、「政党・派閥・利害・打算の次元を超えて、真に国家的課題を調査研究し、特に重要課題は、政府宛要請書を作って、時の政府へ提出する」ことにある。昭和五十四年から本格活動に入り、月例講話会のほかに、八つの部会と、五、六の委員会があり、これまでに百三十七本の要請書を時の政府へ提出している。第二代会長は福田赳夫元総理、第三代会長は桜内義雄元衆議院議長、第四代会長は塩川正二郎元財務大臣、第五代会長代行として、江口一雄元衆議院議員、現在、第六代は代表理事兼会長代行として、岸信夫衆議院議員・前外務副大臣・現議院運営委員会理事が就任している。

▽事務局電話(03)3581-1192 代表理事兼専務理事・清原淳平、総務 重田、高津